

NITTO

NITTOSEIKO NEWSLETTER

日東精工ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20
日東精工株式会社経営企画室発行

日東精工では初の 「CSRレポート2018」を作成し、 6月1日「ねじの日」から公開しています

日東精工ではこれまで、当社等身大の姿をご理解していただくために、IR関係では決算報告書を四半期ごとに公開し、随時、セミナーなどを開催してまいりました。毎年、「環境報告書」も更新しておりますし、事業成長の要となる新製品や技術情報については、毎年7月に「日東テクニカル・レポート」という形で発信しています。

ただ、これらの報告書やレポートは、当社のお取引先様や機関投資家、個人投資家、あるいはメディアの方など、いわば日東精工と関係の深い方、いわば「プロ」の方を対象にするものです。もちろん、こういったステークホルダーの方々を今後大切にさせていただきたいと考えておりますが、広く一般の方々にも、日東精工という会社を知ってもらい、親しみを感じていただきたいという想いから「CSRレポート2018」を発行しました。

当社では近年、事業内容を一般の方にもご理解いただけるように、当社をより身近なものに感じていただけるように工夫をしながら情報発信をしています。たとえば2014年に『人生の「ねじ」を巻く77の教え』(ポプラ社)という当社の人財教育

を一般向け書籍として発刊しました。この本が多くのメディアに取り

上げていただいたことで、「綾部にはモノづくり、人づくりの風土がある」と全国に訴求できました。またねじが大切であるということを広く一般の方に再認識していただき、業界全体の底上げにもつながりました。なにより、当社のブランド価値、企業価値向上につながりました。

ご承知のように、当社は企業間取引(BtoB)企業です。車、家電、食品メーカーのように直接に消費者に訴求するものではなく、テレビや雑誌などで新商品を宣伝するような業種ではありません。とはいえ、常にエンドユーザーの存在を意識することで、良いモノづくりができ、お客さまから信頼を得られるのだと考えています。

当社の「ギザタイト」は樹脂用ゆるみ止めねじで、まず一般の方の目に触れるものではありませんが、ゆるみにくい=集中力持続=実力発揮ということで、このねじを特別加工して受験生にプレゼントするキャンペーンを実施。これまで約1万5000人の方にプレゼントしてきました。次代、若い世代を応援することで、じつは当社のこと、ねじのことをより多くの方々に身近なものとして感じていただくことができています。

また、当社のねじはほとんどがオーダーメイドであり、精密ねじ・極小ねじでは世界トップクラスです。ねじだけでなく、ねじ締め機やねじ締めロボット、さらには流量計や地盤調査機も製造販売するなど、いろいろな業種、分野で、当社製品



『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の書籍
印税をもとに綾部市図書館に毎年児童書を
寄贈しています。子どもたちを招いての寄
贈式を今年も7月21日に開催予定です

は高く評価されています。そして、オンリーワン、ナンバーワンの製品や技術をたくさん有しています。こういったことを日東精工自社内（自分たちだけ）の情報にとどめず、地元の方にも知っていただくことで、地域の誇りと感じていただき、そしてそれは当社従業員や家族の励みや自信にもなるという好循環が生まれます。

ファスナー事業、座機事業、制御システム事業の3つの事業部が連携し〈締結分野でのトータルソリューション〉を提供できる当社日東精工だからできること、あるいは総務省や経産省からも高くご評価いただいておりますが、綾部市に本社をおくコネクターハブ企業だからできること、今後も、これらを大切にしていきたいと思います。

「CSRレポート2018」で当社の社会貢献活動の

これまでの歩みを多くの方に知っていただければ願っています。どんどん新しいことにもチャレンジしていき、「CSRレポート」は毎年4月に更新していく予定です。

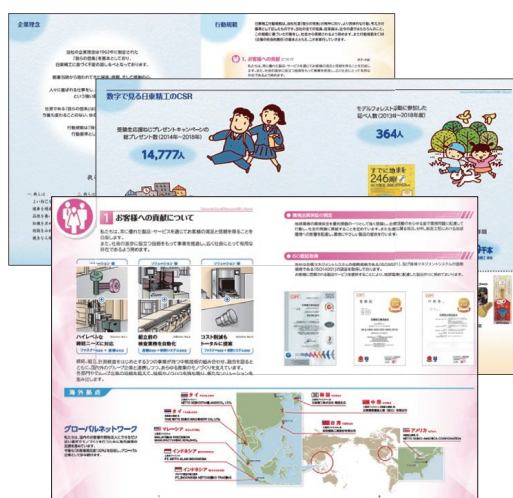


6月10日に「里山ねっと・あやべ」にて「あやべボランティアフェスティバル」が開催されました。この一角に、自由にお持ち帰りいただけるように「CSRレポート2018」を置かせていただきました。今後も各種イベントや説明会などで活用していく予定です。

CSRレポート2018

日東精工は「行動規範」をCSRの基本と捉えています。行動規範は、当社の社是「我らの信条」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として記したものです。当社のすべての役員、従業員は、法令の遵守はもちろんのこと、この規範に基づいた行動をし、社会から信頼されるよう努めるものです。CSRレポートは「行動規範」をベースに以下9つの観点からまとめています。

1. お客様への貢献について
2. 法令遵守について
3. 環境保全について
4. 社会貢献について
5. 情報開示について
6. 政治・行政との関係について
7. 人権尊重について
8. 情報管理について
9. 企業風土について

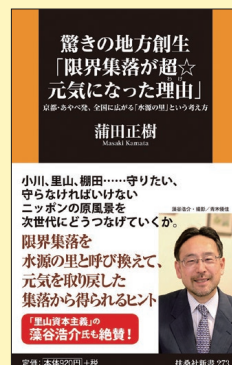


当社ホームページからダウンロードができます

新発売の地方創生本、綾部本にも当社のCSRが紹介されています

日東精工が本社をおく綾部の限界集落の「集落再生」をテーマにした『驚きの地方創生「限界集落が超☆元気になった理由」』（扶桑社新書）が7月2日に発売されました。タイトルに限界集落という言葉があり、当社とは一見無関係に思えますが、同書のなかで、まちづくり、人づくり、地域間交流に当社日東精工が大きな役割を果たしていると数か所にわたって記載されています。綾部市の山崎市長や四方前市長にも日東精工のことを高評価いただいていることがわかります。もうダメだと下を向いていた集落のおばあちゃんが俄然元気になったのはなぜ？集落再生のストーリーにはじつはビジネスヒントがいっぱいです。

同書は当社の人財教育を丁寧に紹介した『京都・あやべスタイル』のいわば第2弾。両書併せてお楽しみください。



地盤工学会の技術開発賞を受賞

当社制御システム事業部の地盤調査機「ジオカルテ」は国内シェアナンバー1を誇りますが、「トルク計測を加えた新しいスウェーデン式試験法(SDS試験法)の開発」で、今般、当社常務取締役足立由紀夫が地盤工学会賞（技術開発賞）を受賞、6月6日に同学会総会で表彰されました。「事前調査にかかるコストを抑え、住宅に関わる地盤の問題を解決する方法の一つとして汎用性があると考えられることから、本研究は技術開発賞としてふさわしい」というのが受賞理由です。

「ジオカルテ」はニュージーランドやマレーシアなど海外でも高く評価されており、今後、よりいっそうのグローバル展開を図ってまいります。



共同研究者である末政直晃さん・田中剛さん（東京都市大学）大和真一さん（ジャパンホームシールド）とともに受賞。向かって右から2番目が、海外出張中の足立に代わって表彰式に出席した当社取締役山添重博

当社事業を説明会やメールで随時発信

福知山と大阪でIRセミナー開催

6月18日に当社本社をおく綾部市のお隣、福知山のサンプラザ万助で、また翌6月19日は大阪証券取引所ビルにある北浜フォーラムで「個人投資家向けIRセミナー」を開催。当社代表取締役社長材木正己が、経営理念や事業内容、今後の展望などを解説しました。両会場ともにP1～2で紹介した「CSRレポート」を配布資料として活用しました。

「ねじの日」に特別メールを配信

6月1日の「ねじの日」を前に、5月31日に特別メールを配信し、なぜ「ねじの日」なのか、これまでの「ねじの日」の歩みなどをご案内しました。

また同メールで、「『クルマの軽量化』軽量化素材への正しいねじ選定とは？」という特集も実施しており、この内容は当社ホームページでもご覧いただけます。

産学連携、地域貢献、人財育成……6月はイベントが盛りだくさんでした

☆海外インターンシップを積極支援

タイのキングモンクット工科大学トンブリ校と京都芸繊維大学、綾部工業団地振興センターとの間で締結されたインターンシップ協定を当社は全面支援。6月5日タイから22名の学生が来社、当社の技術や安全管理体制などを学んでいただきました。

☆綾部高校で「綾部学」

6月6日、将来（就職や進学）を見据えて、地元企業のことや働く意義を高校生に伝える「綾部学」の講師を当社人事課係長の井ノ元美和が務め、またその講義の様子は京都新聞にも紹介されました。

☆北部産業創造センターで当社製品を展示

今春、綾部駅北口にオープンした北部産業創造センターに、6月7日から7月6日まで、当社製品や事業内容を紹介するパネルなどを展示しました。

☆電話対応スキルアップ研修開始

新人を中心に各事業部から計10名が選抜され、6月12日から研修を受けています。全国大会での上位入賞を目指すことで、お客様対応に磨きをかけます。

☆綾部市前市長主宰の「北近畿みらい塾」

綾部市前市長が主宰する「北近畿みらい塾」から、6月15日、70名以上が当社を訪問。講演会ののち、八田工場、城山工場を見学、ファスニングソリューションを体感いただきました。

☆モデルフォレストに社員が参加

当社では毎年、モデルフォレスト（森林維持）活動に協力しています。6月16日に今年度最初の活動を実施、社員約30名が間伐などを行いました。



写真は左上から時計まわりに、タイからのインターンシップ生と記念撮影／北部産業創造センターでの展示／「北近畿みらい塾」の塾生に当社代表取締役社長が講演／モデルフォレスト作業



よく遊び、よく働く。これが一流の証

プ

ロスキヤー・三浦豪太
さんが中高年向けに、

「10歳若返り」をテーマにキャンプを行ったところ、60代70代の方がライフジャケットを身につけて川の中に入ると、10歳若返るどころか、10歳の子どものようになって、滝に飛び込んだり魚を追いかけたりしながら、川遊びを楽しんだそうです。自然には人を元気にする力があり、感覚や感性をリフレッシュさせてくれるということですね。

都会では子どもだけでなく、親世代も自然に触れる遊び体験が少ないようです。経験がないから、ほんとうに危険なこととそうでないことの違いがわからない。すると、子どもの遊ぶスケールは、より小さく制限されていくそうです。

さて、当社は、京都府綾部市に本社をおいています。これは地域の雇用創出、地域貢献という創業精神を受け継ぐものですが、と同時に綾部に

は里山がたくさんあり、自然に触れられることも強みになっていると思います。

よく、オンとオフの使い分けが大事だななどと言いますが、おいしい空気を胸いっぱい吸ったり、土をいじったりできる環境がすぐそばにあることで、ビジネスの上でもプラス作用が働いているはずです。

ちなみに我が家は綾部の本社から舞鶴方面へ車を20分走らせた郊外にあります。のどか過ぎて(!?）、ときどき我が家から「お父さん、猿に囲まれた」というSOS電話がかかってきます。鍵をかけずうっかりドアや窓を開け放したままにしていると、猿が家の中まで侵入してきて、女、子どもだけだとわかったら傍若無人のふるまいをする……それほど田舎なのですが、それほど田舎だからこそ、四季折々の変化を楽しみ、元気をいただいています。

当社の人財教育をまとめた

連載⑦

あやべ ちょっと寄り道

幽かな「荷風」を感じよう
あやべ「極楽寺」

「荷風」といえば永井荷風という作家を思い浮かべる方も多いでしょうが、じつは蓮の花が咲いたとき、その上を吹く風のことを「荷風」というのです。泥水を吸い上げながらも美しい花を咲かせることから蓮には「清らかな心」という花言葉もあるようですが、清々しく品のよい香り、幽かな香りです。現代は強い刺激に慣れっこになってしまいましたが、こういったものを味わう感性も磨きたいですね。いまがまさに見ごろの蓮の花。

綾部では極楽寺で2000年の眠りから目覚めたといわれる珍しい「大賀ハス」に出合えます。



写真協力／綾部市観光協会

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）の38番には「休むときには『しっかり』が基本」とあります。そして、レジャーとは「ツー・ビー・アラウド（許された状態）」と定義しています。日常から解き放たれ自由になれることです。夏休みやお盆休みに海外旅行や観光地、テーマパークなどに繰り出す人は多いです。そのとき、混まないうちに早起きして出かけよう、それでも道路が混んでいてイライラするのは、ツー・ビー

ー・アラウドではなく、拘束された状態にあります。休暇がリフレッシュにつながらず疲れをもたらず、ストレスになるのでは本末転倒ですね。もちろん家族サービスは大事です。限られた時間のなかでこうしたい、こうしてほしいというのもあるでしょう。だからこそ、遊びとはなにか、レジャーとはなにかを改めて見直したいものです。見直すことで、プライベートにも仕事にもきつといい影響が出てくると思います。